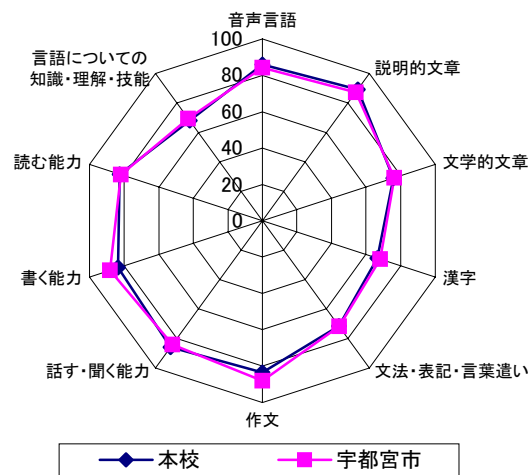


宇都宮市立旭中学校第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	85.9	84.1
	説明的文章	89.3	87.3
	文学的文章	75.8	76.3
	漢字	66.4	68.1
	文法・表記・言葉遣い	71.7	71.8
	作文	83.5	88.0
観点別	話す・聞く能力	85.9	84.1
	書く能力	83.5	88.0
	読む能力	82.6	81.8
	言語についての知識・理解・技能	68.2	69.4



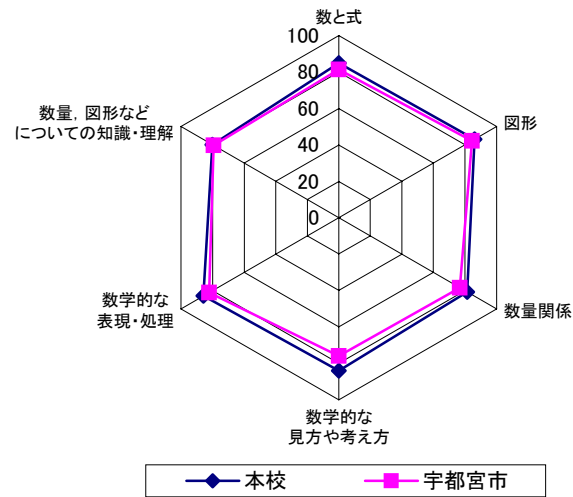
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (85.9%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると1. 8ポイント上回っている。おおむね詩の平均を上回っていると言える。しかし、出題内容の「司会者の役割」では0. 7ポイント下回っており、普段の生活の場面で経験のないものについては、聞き取る力が弱いと考えられる。	・普段の授業で、話し合い活動を取り入れ、「話すこと・聞くこと」に意識して取り組める場を設定する。また、いろいろな場面を想定した聞き取りの問題に数多く取り組ませることによって、聞き取るコツをつかめるようにさせる。
説明的文章 (89.3%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると2. 0ポイント上回っている。昨年度3. 0ポイント下回っていたことを考えると生徒の努力が実を結んだといえよう。ほとんどの問いについて市の平均を上回っているが、最後の意見を述べる問題については無解答の割合が高かった。	・説明文の構成のパターンを常に押さえるとともに、一見難しく感じがちな漢語の意味を捉える方法を身につけさせる。それには漢字の訓読みの知識をつけさせることが不可欠であるとする。また、授業を通して説明文に触れる機会をなるべく多く作る。また、文脈に即して、情報をとらえ、文章の展開を捉えた上で、自分の意見を述べる活動を増やしていく。
文学的文章 (75.8%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると0. 5ポイント下回っている。登場人物の心情を問う問題はいずれも市を上回っていたが、主題を問う問題、記述の問題の不正解、無解答が目立った。	・普段の読書指導が効果を上げていると考えられる。すでに読書が生活の一部になっている生徒も少なくない。しかし、同じ傾向の本ばかりを読む生徒が多く、今後は読書の幅を広げることも大切であろう。これからは学校司書と連携をとり、様々な読書活動を取り入れていく。また、感想を述べる活動を増やしていく。
漢字 (66.4%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが昨年度の宇都宮市の状況と比べると漢字は3. 6ポイント下回っていたが本年度は1. 7ポイントの差となった。まだ、平均には達しないが差は縮まったといえる使用頻度が高いにもかかわらず、正確に読み、書きができていないものが目立った。	・授業でも新出漢字の練習は時間をとって行っているが、いろいろな熟語としての形で文に沿って使えるようにする必要があると思われる。また、部首の形、意味をしっかり抑えた指導が必要と思われる。今後はそういった点も工夫して授業を構築していく。また、単元末テスト等の機会を生かして定着を図る。
文法・表記・言葉遣い (71.7%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると0. 1ポイント下回っている。昨年度1. 9ポイント下回っていたことと比べる地改善が図れたと考える。おおむね市の平均を上回っていたが、同音異義語の問題の正答率が低かった。	・漢字の力がそのまま反映されているといえる。訓読みの力がなければ熟語の組み立てを理解するのは難しい。まずは言葉の基本である語彙力をいろいろな文学作品に触れたり、語句の問題演習を通して身につけさせていく。また、文法に関しては機会を作って何度も演習を行うことで定着を図る。
作文 (83.5%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると4. 5ポイント下回っている。が昨年度は5. 6ポイント下回っていたので少し改善されたと考える。特に慣用句を用いた短文をかけない率が高かった。	・。慣用句や四字熟語はカルタを作成して、活動させた。意味はある程度理解しているとおもわれるが、文を書く前にあらかじめ生徒の率が高い。普段の授業でも短文を作る活動を多くし、慣れさせることが必要である。同じ言葉を用いたいろいろな文章に触れさせていく。

宇都宮市立旭中学校第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	84.8	81.5
	図形	86.1	84.3
	数量関係	81.5	76.8
観点別	数学的な見方や考え方	84.0	76.0
	数学的な表現・処理	85.8	82.3
	数量、図形などについての知識・理解	80.2	79.2



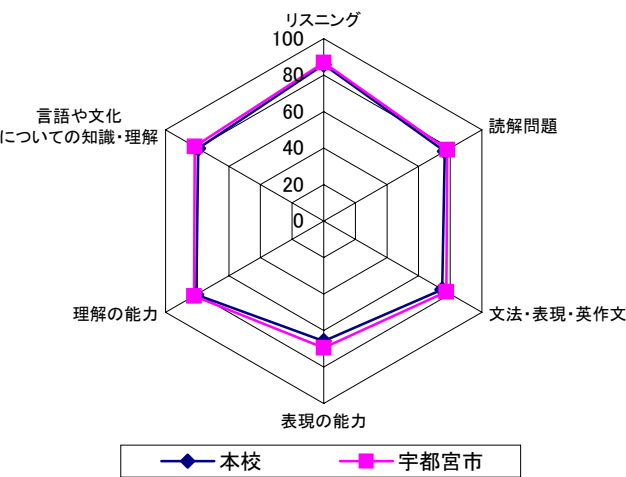
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (84.8%)	・宇都宮市と本校を比較した場合、市を3.3ポイント上回っており、出題内容12項目の中で、市を下回っている内容は3項目であった。 ・昨年度の本校の結果と比較した場合、11.3ポイント上回っている。	・12項目の中で、「平方根の乗法」が1.6ポイント、「素因数分解」が0.5ポイント、「2次方程式」が0.1ポイント下回っていた。基本的な内容、考え方を身に付けさせることが大切であると思う。定着を図れるように支援していく。
図形 (86.1%)	・宇都宮市と本校を比較した場合、市を1.8ポイント上回っており、出題内容4項目の中で、市を下回っているの内容は1項目であった。 ・昨年度の本校の結果と比較した場合、1.9ポイント上回っている。	・4項目の中で、「三角形の相似比」が3.3ポイント下回っていた。多くの問題に触れさせ、理解を深めていく。
数量関係 (81.5%)	・宇都宮市と本校を比較した場合、市を4.7ポイント上回っており、出題内容6項目の中で、市を下回っているの内容はなかった。 ・昨年度の本校の結果と比較した場合、4.9ポイント上回っている。	・本校の3学年の生徒は、昨年度(2年次)も市のポイントを上回っていることから、比較的、数量関係の内容を理解していると考えられる。更に細かな部分も確認しながら指導し、より理解できるように支援していく。

宇都宮市立旭中学校第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	85.7	86.9
	読解問題	76.4	78.2
	文法・表現・英作文	74.9	77.6
観点別	表現の能力	65.8	69.5
	理解の能力	80.7	82.2
	言語や文化についての知識・理解	79.4	81.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (85.7%)	・宇都宮市と本校を比較した場合、市の平均を1.2ポイント下回っている。しかし、小問ごとに見た場合、平均を上回っているものもある。	・今後も授業中、生徒ができるだけ生の英語に触れられるよう、英語を多用するとともにALTも活用していく。 ・ある程度まとまりのある長い英文を聞いて、内容を理解する練習を普段の授業の中に積極的に取り入れ、答え合わせの際には、スクリプトを提示し、聞き取りにくかった箇所を確かめられるよう配慮する。
読解問題 (76.4%)	・宇都宮市と本校を比較した場合、市の平均を1.8ポイント下回っている。しかし、2年次には3.7ポイント下回っていたことから考えると、進歩が見られる。	・今後も教科書本文の内容を大まかにつかみ、本文に関する日本語でのQに日本語で適切に答える、また英語でのQに英語で答えるといった練習を、口頭練習とライティング練習の両方にうまく取り入れていく。 ・時には教科書を離れた英文を取り上げ、英語で書かれた物語を読む楽しさを味わわせるとともに、内容を理解するトレーニングも取り入れる。
文法・表現・英作文 (74.9%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると2.7ポイント下回っている。しかし、2年次7.6ポイントも差が合ったことから考えると、かなり改善されていると考えられる。	無記入の率も市の平均と比較して高いことから、わからないとあきらめてしまう生徒がかなりいる。問われている表現そのものが出てこなくても、対話の流れに沿った英文を、自分の知っている表現に言いかえて書くことを指導する。また、語彙を増やすためのインプット活動や、辞書を活用する活動を進んで取り入れる。また、表現力は一朝一夕に身につくものではなく、1年次からの正確な文法力に基づいた基本文の習得も大切である。表現の幅を広げると同時に、基礎基本を大切にする。